



プロジェクトニュース

シエラレオネ 地域開発能力向上 (CDCD) プロジェクト

「本邦研修 ～自分ができることをアクションプランに～」号

2017年8月4日号 (Vol.47)

研修員一行は、すべての講義・視察を終えて東京に戻り、アクションプランを作成、研修の最終日に発表し、閉講式を迎えました。

世田谷区、東松島市、仙台市での講義・視察から学んだことのうち、各自がシエラレオネに戻った後の、業務活動計画である「アクションプラン」を作成しました。

アクションプラン作成のキーワードは、どんな小さなことでも自分自身で実施できる活動であることです。シエラレオネでは、地方自治体の事業予算が非常に限られており、地域開発計画のうち実施できる事業は少ないという状況に置かれています。計画は作成されても実施されなければ意味がありません。研修員が研修を通じて学んだことを生かすには、小さなことでも彼らが実践することが大切です。研修員は、研修の学びを踏まえ自分が帰国後にできることを考え、アクションプランを完成させました。

アクションプラン発表会には、研修初日に「日本の地方行政」に関する講義をしていただいた横浜国立大学の小池教授にも参加して頂きました。

発表は1人15分で、研修員のリーダーである地方自治・地域開発省のバル氏が進行役を務めて行われました。発表会で配布された資料には、研修員がたくさんの学びを挙げていたため、時間内に発表を終わらせられるのか心配でしたが、1人も時間をオーバーすることなく発表を終えることができました。「本研修の講義・視察がすべて時間通りに実施されており、時間を守ることも重要」、これも多くの研修員が学んだことの一つだそうです。



研修修了証を手にした研修員

アクションプランの内容は、「エボラの影響を受けたコミュニティ開発支援」、「地方自治体とコミュニティの連携促進」など、各自が最も印象に残り且つ自分たちで実施できる内容でした。小池教授からは、研修員ひとりひとりのアクションプランに丁寧なコメントを頂き、研修員は、真剣なまなざしでコメントを聞いていました。

研修員は帰国後、アクションプランの実施に向け、活動内容等をより具体化させることとなります。研修員が作成したアクションプランがどのような形で実施されるのか、今後の活躍に注目したいと思います。

以上